

自己評価表

愛媛県立三瓶高等学校  
学校番号 (39)

教育方針	(基本方針) 人格の完成を目指して、思いやりの心・向上する心・健やかな心を養い、21世紀をたくましく生きぬく、自主的精神に満ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努める。 (指導目標) 自己教育力の向上を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。	重点目標	(本年度の重点努力目標) <b>主体性・多様性・協働性を育む～地域・社会に貢献できる人材となるう～</b> 1 地域に根ざした学校、地域に貢献できる学校を目指す。 2 個に応じた学習指導を徹底し、進路実現を図る。 3 自ら考え、自ら行動できる生徒の育成に取り組む。 4 部活動を活性化させ、健全な心と体を育てる。 5 清潔で美しい学校環境づくりに励む。 6 教育活動の公開と情報発信に積極的に取り組む。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校運営等	地域に密着した学校、地域に貢献できる学校づくり	○生徒・教職員・保護者が一体となった学校(人)づくりを進める。 ・生徒の地域へのボランティア活動参加100% ・笑顔で元気なあいさつ100% ・毎日教職員から声をかけられる生徒100% ・三瓶高校へ入学して良かった生徒、入学させて良かった保護者100%	B	・ボランティアへの参加率は、昨年よりも大幅に増加している。 ・あいさつに関しては、昨年度と比べ少し割合が減少しており、意識の低下がみられた。 ・教職員の声かけの割合は例年と同様であった。 ・入学に肯定的な意見が生徒も保護者も9割を超えているが、生徒は増加、保護者は減少傾向にある。	・ボランティア活動の環境を整えることにより、生徒の主体的・積極的参加を図りたい。 ・教育活動全般をととして家庭や地域との協力のもと、気持ちの良いあいさつがきける生徒を育てたい。 ・少数教育ならではの一人ひとりを大切にすきめ細やかな指導により生徒との信頼関係を深める。
		○学校行事への保護者の参加率を高める。 ・PTA総会出席60%以上 ・保護者の学校行事への参加・協力100% ○地域との協働に努める。 ・生徒・教職員の地域行事への積極的な参加 ・市や町と協力体制の整備による三瓶高校の魅力化 ・学校の存続と生徒の確保	B	・PTA総会の出席率は6割を切り、保護者の学校行事への参加・協力の割合が減少傾向にある。 ・地域行事への参加は、教員・生徒ともに増加傾向にあり、学校行事などで地域の協力支援も仰げた。 ・市の協力体制のもと、公営塾が設立の運びとなった。 ・学校魅力化の取組や学校の良さを中学校中心にアピールしたが分校化等の影響で志願者が減少した。	・総会での講演会や学校行事の内容を工夫して保護者の参加・協力を図る。 ・学校行事・総合的な学習(探究)・HR活動等をととして地域課題解決学習の充実により地域連携・協働を図る。 ・公営塾の活用を積極的に行い、教職員と講師の連携を密にし、生徒の学力の向上を図る。 ・地域と協力して地元中学校に積極的に働きかけるとともに全国募集も視野に入れた生徒募集を行う。
	積極的な教育活動の公開と情報発信	○ホームページをリアルタイムに更新する。 ・公開授業や学校行事など、情報の積極的発信 ・地域への情報発信と報道機関への積極的な教育活動の紹介	B	・各教員の毎日更新によりアクセス数は微増しているがホームページ以外の対応も必要である。 ・新聞・雑誌等の記事掲載やテレビ番組での紹介等の機会をもっと増やす。	・学校公式サイトによるSNSの活用等も考える。 ・課題解決学習の成果を発表する機会を学校内部はもとより学校外部にも求め、生徒の主体的な活動の場を増やして情報を発信を行う。
学習指導	個に応じた学習指導 一確かな学力の定着と向上	○生徒の実態に合わせた指導法の研究に取り組む。 ・生徒の授業満足度100%	A	・授業アンケートで、「授業の内容が理解できている」の評価が0.16ポイント上昇した。	・さらに生徒が興味・関心を持つ授業、分かりやすい授業を心掛け、各教員が相互研修も含めて自己研鑽に努めていきたい。
		○生徒自ら学ぶ意欲を育てる。 ・家庭学習時間毎日2時間以上 ・毎日の課題と確認の徹底 ・課題をこなせない生徒への配慮と指導	B	・学習時間調査では、一昨年度より20分程度増加した昨年度とほぼ同じであった。	・進路目標を明確にし、その実現のために生徒各自が自主的に学習する意欲を育てる。適宜、課題を与え、事後指導も徹底させて、学習習慣を身に付けさせる。
		○アクティブラーニングを取り入れた授業の研究と実践を行う。 ・校外研修や他校視察を実施 ・ICTを活用した授業改善の実施	B	・他校の学校訪問に積極的に参加した。 ・スタディーサブリを長期休業中の課題及び課題テストに活用した。	・スタディーサブリ、及び普段の授業でのICT機器の活用について、より効果的に活用できるように研究を重ねる。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

自己評価表

愛媛県立三瓶高等学校  
学校番号 (39)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導・特別指導	三高スピリットの育成と向上(思いやりの心、向上する心、健やかな心)	○部活動、ボランティア活動を通して確かな三高スピリットを育てる。 ・ボランティア活動参加100%	B	・生徒が学校教育に対しての三高スピリットを高める教育活動が行われているアンケートに対して、昨年度よりも高い評価を得られた。 ・昨年度は、豪雨災害のため、奥地の海のかーにばるが中止となり、ボランティア活動に参加した生徒の数は少なかったが、今年度実施され、全体のボランティア活動参加率が94.1%に上昇した。	・思いやりの心、向上する心、健やかな心を喚起する活動を充実させたい。
	特別活動(部活動)の活性化	○生徒自身による自主的な学校行事、生徒会行事を推進する。 ・一人一役運動の推進と徹底 ・部活動加入100% ・県総体への参加30名以上	B	・全ての生徒が一人一役以上できる学校行事や生徒会活動が実施できた。 ・部活動加入率95.5% ・県総体参加生徒19名	・少人数の利点を活かし、すべての生徒が活躍できる行事や生徒会活動の運営を実施する。
	安全・衛生指導の徹底	○安全指導の徹底を図る。 ・登下校中の交通事故0件 ・自転車用ヘルメットの着用率100% ・交通安全委員会・保健委員会の活動の活性化	A	・登下校の交通事故0件であった。 ・ヘルメットの着用率100% ・各学年で歯科教育を実施した。 ・交通マナーアップの会議や行事に参加した。	・開校日以外でもヘルメット着用と自転車の乗車マナーの徹底を図る。 ・各委員会の活動が活発になるように、全校集会での活動を活発化させる。
	美しい学校環境づくり	○生徒・教職員、時間一杯清掃活動に取り組む。 ○汚さない・散らかさない生徒、ゴミを拾える生徒を育成する。	B B	・清掃の5分前行動の徹底ができています。 ・細かなゴミの分別などがきちんとできた。	・生徒数が少ないからこそ、一人一人の生徒に清掃の役割を持たせ、任せる指導を徹底させる。
進路指導	個に応じた進路指導	○全教職員・保護者が一体となって進路指導を進める。 ・志望校合格100%・就職内定100% ・スタディサプリの積極的活用 ・進路に関する三者面談の充実 ・在学中、各種検定一人一検定以上合格	B	・志望校合格100%・就職希望者内定90% ・夏季及び冬季休業中に年2回の保護者懇談(三者面談等)実施 ・夏季及び冬季休業中課題としてスタディサプリの配信動画視聴を設定。 ・各種検定合格生徒(1年11.8%、2年76.0%、3年80.0%)	・保護者と学校が一体となって進路指導の更なる充実に努める。 ・検定取得、資格取得意識の高揚を図る。 ・進路指導を全教員が共通認識を持って取り組む。
		○生徒の進路意識向上のため1年次より適切な進路情報の提供を行う。	B	・校内進路説明会や各学年での進路オリエンテーションを実施した。	・低学年から将来の進路デザインを構築できる活動を充実させる。
	キャリア教育の充実	○職業指導や就業体験活動の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を養う。 ・応募前職場見学の充実 ・仕事体験学習やオープンキャンパスへの参加促進 ・ハローワークとの連携強化	B	・夏季休業中、応募前職場見学に積極的参加した。 ・オープンキャンパスや校外の進路説明会への積極的参加が見られた。 ・就職希望生徒の状況について情報を提供するなどハローワークとの連携緊密化が図れた。	・応募前職場見学や就業体験活動など勤労観を育む活動を継続していく。
人権教育	人権学習の充実	○人権・同和教育HRの年4回実施や人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	B	・人権・同和教育HR活動や人権講演会を通して、人権意識の高揚が図れた。	・HR活動で人権委員が活動できるよう指導していきたい。
		○人権だよりを毎学期発行し、人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実させる。	B	・人権だよりを毎学期発行し、生徒だけでなく保護者に向けての啓発活動が充実した。	・生徒が主体的に「人権だより」を作成できるよう指導していきたい。
	情報モラル教育の充実	○授業やホームルーム活動を通して、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	B	・講演会で外部から講師をお招きして、携帯電話やネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てることができた。	・引き続き、SNSなどの適切な利用の仕方をHR活動などの学校生活の中で伝えていきたい。

自 己 評 価 表

愛媛県立三瓶高等学校  
学校番号 (39)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
現職教育	研修の充実	○校内研修を年5回以上実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	B	・中高研修会が2回、「情報」「選択理論」「公営塾」「主体的・対話的で深い学び」に関する研修など5回以上の校内研修を予定どおり実施できた。	・研修に参加したときは、職員会議で報告して全員が情報や研修を共有できるようにする。また、校内研修の内容がニーズに合ったものになるよう工夫する。
		○年5回の公開授業や研究授業を活用して、相互の授業研究を積極的に行い、授業改善に役立てる。	C	・公開授業は計画的に実施できたが、相互の授業研修はあまりなされていなかった。	・全教員の授業参観や授業研究への積極的な参加に努めるとともに、それぞれの公開授業に研究テーマを設けるなど授業改善につながるよう実施したい。
保健・安全管理	保健活動の充実	○月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行する。	B	・月1回、生徒の健康を考慮した「保健だより」を発行した。	・生徒の健康の保持増進につながる保健だよりを月1回発行し、各HRRの保健指導資料とした。
		○生徒保健委員会活動を充実させ、健康に関する情報発信と意識向上に努める。 ・感染症の予防のための手洗いや換気の励行	B	・月1回、生徒保健委員会を開催し、計画的に活動した。毎日の「健康日誌」の提出や、文化祭の展示、「保健だより」の作成を行った。冬季は、感染症予防のため、加湿器の管理や換気を行った。	・生徒の健康課題を発見し、改善につなげることができるよう、計画的に生徒保健委員会を開催し、生徒に発信していきたい。
	安全管理の徹底	○月1回の安全点検を実施し、安全管理の徹底を図る。	B	・月1回安全点検を実施し、適切な修繕等を行い、安全管理を図った。	・月1回安全点検を実施し、安全管理に努めたい。
事務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	○消耗品等の経費節減に努め、予算を有効に活用する。	B	・用紙及び文具代は前年度より約5万円の削減ができたことで、予算の有効活用ができた。	・分校化により予算が本校と一本になるため、本校と連携しながら教育効果を上げるための予算執行に努めたい。
	環境整備と安全管理	○校内の修繕箇所の早期発見、早期対応を図る。	B	・安全点検や職員間の情報共有により、修繕箇所を早期に把握し対応することができた。	・引き続き、設備環境の向上に努めたい。
		○100周年記念事業に向け、美しい学校環境づくりに努める。	A	・樹木剪定及び除草作業が必要な時期に適切に実施できた。	・より一層、美観を考慮して環境整備を行っていきたい。